

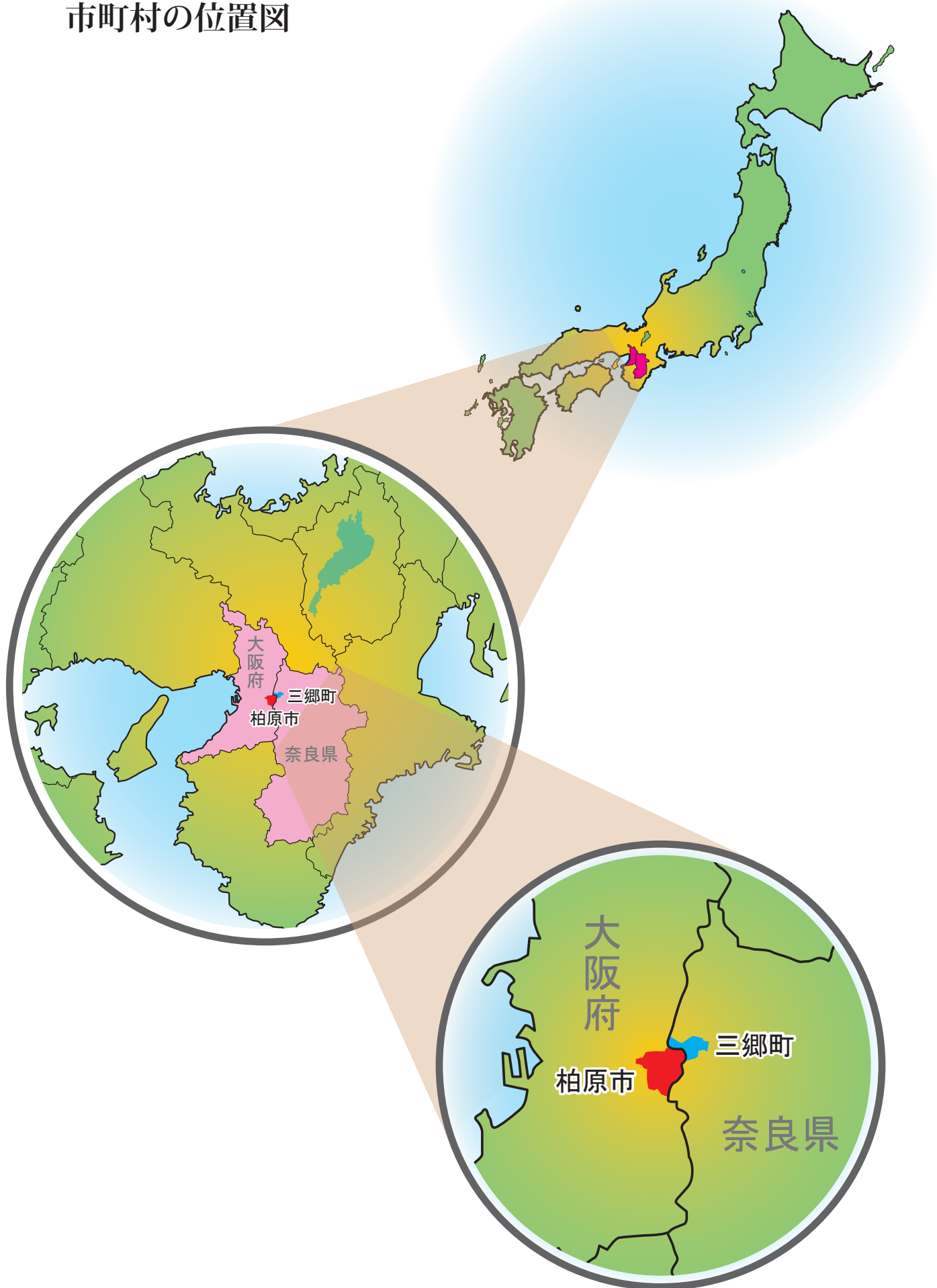
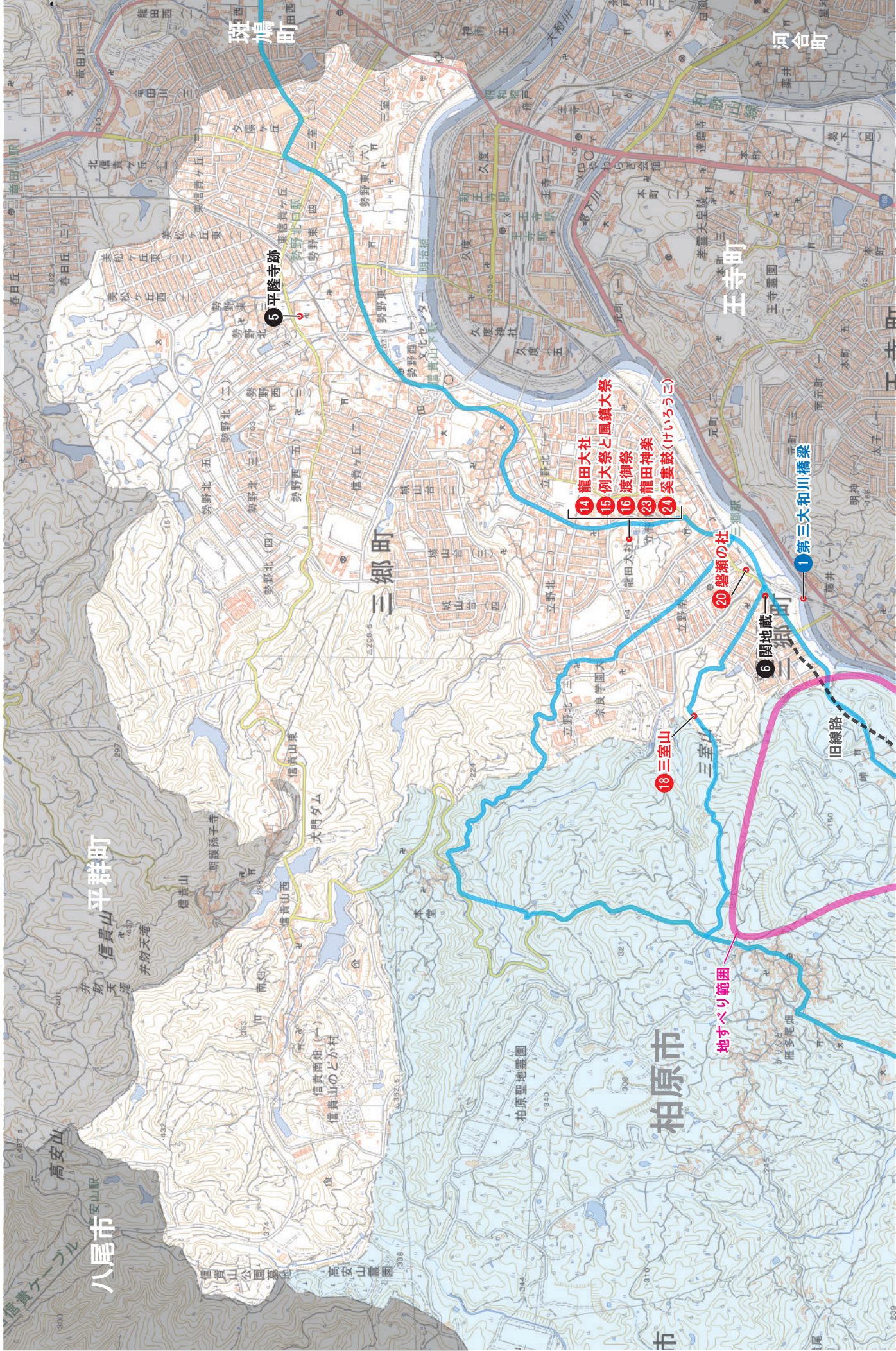


① 申請者	◎奈良県三郷町、大阪府 柏原市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	たつたこどう しんぞうば かめのせ こ		
もう、すべらせない！！ ～龍田古道の心臓部「亀の瀬」を越えてゆけ～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
<p>「亀の瀬」、それは奈良と大阪の国境に位置し、奈良盆地の水を一手に集める渓谷地帯。ここは、4万年前から地すべりが繰り返されてきた難所でありながら、古代より都の西の玄関口として交通・経済・治水を支えてきた心臓部だ。万葉びとが歌に詠み、文物の往来によって発展を遂げた「龍田古道」は、地すべりの恐怖と隣り合わせにある。古代からこれまで、人々は都度の最新技術を結集させてこの要衝地を守り、龍田の風の神がその歴史と常にとともにあった。</p> <p>龍田の風を肌に感じながら古道を歩いてみよう。土砂に埋もれた鉄道トンネルを覗き、未来の暮らしを支える土木技術に触れ、いざ亀の瀬を越えたとき、自然の驚異と寄り添い暮らす日本人ならではの心のありようが見えてくる。</p>			
			
初夏（つつじ）の龍田古道		龍田大社祭祀「風鎮大祭」	

市町村の位置図



三郷町 日本遺產關連文化資源分布地図





柏原市 日本遺産関連文化資源 分布地図

ストーリー

◆奈良と大阪をつなぐ心臓部「亀の瀬」

奈良と大阪を結び、日本の交通網の原形として整備された龍田古道。そこに立ちはだかつていたのが、4万年前より地すべりが繰り返される天然の関所「亀の瀬」だ。ここを押さえずして、奈良の都の発展は望めなかった。

亀の瀬は、現代でも奈良と大阪の経済や治水を支えている要所、まさに「奈良と大阪を生かす危険で重要な心臓部」である。地すべりによって大和川が堰き止められた場合、奈良盆地は浸水して大きな湖となり、やがてその水は鉄砲水となって大阪平野を水没させる。近代以降でも3回の地すべりが発生しており、この街道の重要地点を守るために60年近くの歳月と850億円以上もの費用を投じ、今なお最新技術を結集させ対策工事が続けられている。



昭和7年の地すべりによる地割れの様子

◆龍田古道の発展～恐れから望郷へ～

奈良盆地の水を集めた大和川は、生駒山地と金剛山地のあいだの細い溪谷を抜け、大阪へと流れ出す。その大和川に沿った山越えの道が龍田古道である。

奈良盆地を背に、右手に龍田山、左手に大和川が迫る亀の瀬周辺は、極めて狭く視界も悪い。そそり立つ壁のような地形から感じる圧迫感は、都を離れる人々の不安やさびしさを増幅させる。こうして、亀の瀬は都を行き来する人々にとっての心理的な障壁となる天然の関所として恐れられていった。『万葉集』には、国境の峠が「恐（かしこ）の坂」と言われ、旅の安全を願い、この地で神に祈りをささげたとある。

聖徳太子が斑鳩に宮を置いた推古天皇の時代から龍田古道の整備が進んだ。平城京に都が置かれた後は、都と大阪、そして大陸とを結ぶ最もアクセスの良いルートで、輿や馬に乗ったまま越えられる唯一の道として、さらには、物流を支える大和川の水運も活用できる高機能なルートとして重宝された。人の往来が活発になれば、そこには最新の文化が集まってくる。平城宮と難波宮を結ぶ大路として皇室の離宮や河内国分寺・国分尼寺が建てられ、沿道は寺町、そして行幸路としての発展を極めた。



奈良時代の行幸路

数多くの文化人や貴族が龍田古道を通るようになると、この険しい天然の関所は「恐れ」だけでなく「都を離れるノスタルジー」の象徴となっていく。デジタル社会の現代とは異なり、一度都を離れたら次に戻れるのは数年後かもしれない。都に残した恋人や家族を想ってつい振り返った先に見えるもの、つらい長旅の終わりに都に帰ってきたことを実感させるもの。それが、亀の瀬の背後にそびえる龍田山だ。この地を越える万葉びとの多くが龍田山を歌に詠んだ。

人もねの うらぶれ居るに 龍田山 御馬近づかば 忘らしなむか

「万葉集」巻5－877 山上憶良

(文意：人みなが侘しくお慕っているのに、龍田山に馬が近づいたら、あなたはわれわれをお忘れになってしまいませんか。) この歌は、山上憶良が大宰府から大和に帰る大伴旅人に向けて詠んだ惜別の歌である。

◆龍田の神に守られて

龍田古道の発展と渡来人の流入によって、亀の瀬を行き交う人々の心の支えだった自然信仰も独自の変容を見せる。二つの山脈の切れ目となるこの地は陰陽道における「龍穴」にあたり、都によい気を運び入れる風の通り道とされた。危険な心臓部を守護し、国家の安寧を祈願するために都の西の玄関口に龍田大社は創建される。その信仰は大陸の陰陽五行思想と融合し、「風の神」という地域独自の信仰を確立していく。日本の土着信仰において「龍」は本来水の神だが、龍田の龍は風を司るという点が極めて珍しい。龍田大社のしめ縄は柱にぐるぐると龍を模した形で巻き付けられている他に類を見ない独特な形状が目立つ。



龍田大社の特徴的なしめ縄

こうして風の神は、都の貴族のみならず、地域に暮らす人やその地を行き交う多くの人々に信仰され、今では、風との関わりが深いパイロットやアスリートまでもが風の神を頼りにやって来る。古代に国家的行事として始まった、旅の安全や国家の繁栄を願う「風鎮大祭」は脈々と現代にも引き継がれ、日本の風信仰の中心として人々の生活に溶け込んでいる。

◆亀の瀬を守ってきた歴史が未来に伝えること

近代以降も、龍田古道は奈良と大阪を結ぶ重要な道すじとしての地位を失うことなく、道路や鉄道が敷かれ開発が進められていった。大和川に対して斜めに架けられた鉄道橋からは、地すべりで迂回を強いられた線路の様子が見て取れる。また、地すべりにより埋もれていた鉄道跡「亀の瀬トンネル」は現在一般公開され、当時の建築技術と災害の歴史を今に伝えている。緻密なイギリス積み煉瓦（れんが）壁、蒸気機関車の黒いすす跡の残る天井、生々しい崩落面など、他所では見ることのできない遺構がタイムカプセルのように往時の姿を示す。



亀の瀬トンネルの崩落面

近畿経済の中枢を支える亀の瀬に大規模な地すべりが発生した際の被害額は 4.8 兆円にのぼると想定されている。災害リスクを身近に抱えながら、日々の暮らしがあたりまえに続くことを祈り、旅の安全を願い、未来の発展を夢見た古代の人々の想いは、いまを生きる我々のそれと少しも変わらない。古代から現代、さらに未来に向かって亀の瀬に災害対策の痕跡が積み重ねられていく。その足跡は、自然の力に対する古代の人々の畏敬の念を現代に引き継ぐとともに、自然の脅威と寄り添い暮らす日本人ならではの心のありようを象徴する景観を形成してきた。

龍田の風に背中を押され、龍田古道を彩る 1,400 年以上の歴史を辿る旅に出よう。龍田の紅葉を愛で、今を生きるわたしたちの姿が、旅する万葉びとの列のうしろに加わっていく。

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
亀の瀬の地すべりに関する構成文化財				
①	だいさん やまとがわきょうりょう 第三大和川橋梁	未指定 (建造物)	地すべりとの繋がりを残す鉄橋 1931(昭和6)年に発生した亀の瀬の地すべりによって、鉄道が大和川の左岸へ迂回された際に架橋された鉄橋。 特殊な構造で、河川に対して角度をつけて架けられており、当時の逼迫した状況を今に伝える。	奈良県 三郷町
②	きゅうおおさかてつどう かめのせすいどう 旧大阪鉄道亀瀬隧道	柏原市指定 有形文化財	地すべりから残った奇跡のトンネル 1892(明治25)年に完成したが、1931(昭和6)年の地すべりで入口部分が崩壊、線路は大和川左岸に移された。驚くことに、2008(平成20)年にこの隧道の内部が良好に残っていたことが発見された。	大阪府 柏原市
③	かめ せじ 亀の瀬地すべり れきしりょう 歴史資料	歴史資料	地すべりのことならおまかせ 亀の瀬の過去の被害状況の記録が絵葉書などの資料として保存されているほか、これまでの対策工事の記録資料も保存展示されている。	大阪府 柏原市
④	だいよん やまとがわきょうりょう 第四大和川橋梁	未指定 (建造物)	地すべりが生み出した鉄橋 1931(昭和6)年に発生した亀の瀬の地すべりによって、鉄道が大和川の左岸へ移された際に架橋された鉄橋。特殊な構造で、河川に対して角度をつけて架けられており、当時の逼迫した状況を今に伝える。その構造が鉄道ファンに評判になっている。	大阪府 柏原市
龍田古道沿いの構成文化財				
⑤	へいりゅうじあと 平隆寺跡	奈良県指定史跡	龍田古道は平群氏の影響も 大和に入り、三郷町の北東の勢野地区は平群氏が治める平群谷の南端となる。平群氏が古道と大和川を見下ろす高台に氏寺「平隆寺」を建てたのは、交通の要衝として大和川の水運と共に、龍田古道を意識していたことが分かる。	奈良県 三郷町

⑥	せきじぞう 関地蔵	未指定 (彫刻、民俗)	国境の関を示す地蔵 天武天皇の御世に置かれた「龍田の関」を示す地蔵尊。明治に入り大和川対岸に現在の国道 25 号線が敷かれるまでは、大阪と奈良の大動脈の通行を管理する場所で、通行料等を徴収していた。	奈良県 三郷町
⑦	あおたにいせき 青谷遺跡 たかはらいとんぐうあと (竹原井頓宮跡)	未指定 (史跡)	聖武天皇も宿泊した離宮 大和川北岸に設けられた奈良時代の離宮跡。聖武天皇らが平城宮と難波との往来に際して宿泊に利用した。瓦葺建物、石敷き施設などを確認。対岸に河内国分寺跡があり、景観も意識した立地となっている。	大阪府 柏原市
⑧	なつめ わた あと 夏目の渡し跡	未指定 (文化財的景観)	大和川を渡って対岸へ 大和川の川幅が最も狭い場所で、兩岸を結ぶ渡しがあった。ここで対岸へ渡り人々が往来した。現在は、スリル満点のつり橋がかかっている。	大阪府 柏原市
⑨	かわちこくぶんじあと 河内国分寺跡	未指定 (史跡)	七重塔がそびえる河内国の国分寺 竹原井頓宮の対岸に、聖武天皇の命令で建立された。対岸に竹原井頓宮跡があり、宮や古道から眺める七重塔は壮観だったに違いない。塔跡は復元整備され、見学できる。	大阪府 柏原市
⑩	しば やま 芝 山	未指定 (名勝)	万葉集に「島山」と詠まれた 湾曲して流れる大和川に浮かぶようにみえる芝山。その風光明媚な景色は、万葉集に「島山」と詠まれた。	大阪府 柏原市
⑪	まつおかやまこふん 松岳山古墳	国史跡	石に覆われた不思議な古墳 全長 130m の前方後円墳。墳丘は石積みで往来の人々を驚かせるとともに、白く輝く古墳は龍田古道の目印となったことだろう。日本最古の「船氏王後墓誌」(国宝)はこの付近から出土したとされる。	大阪府 柏原市
⑫	しせきたかいだ よこあなこうえん 史跡高井田横穴公園	国史跡	百済との繋がりを伝える 5 世紀後半に造られた高井田山古墳や 6 世紀中頃から 7 世紀前半にかけて造られた高井田横穴群を保存公開する史跡公園。高井田山古墳からは朝鮮半島の百済と結びつく出土品があり、龍田古道が大陸と結びついていたことを示す。	大阪府 柏原市

⑬	ちしきじあと 智識寺跡	大阪府指定史跡	東大寺大仏の造立は智識寺から 仏教に深く帰依した信徒（知識）によって建立された寺院。聖武天皇が難波宮への行幸の途中、智識寺の盧舎那仏を拝まれたことが、東大寺大仏造立のきっかけとなった。奈良時代に龍田古道の大阪側が仏教世界を体現していたことを示している。	大阪府 柏原市
---	----------------	---------	--	------------

信仰に関する構成文化財				
⑭	たつたたいしゃ 龍田大社	未指定 (建造物)	大和の西の出入口を守る龍田の風神 龍田古道の信仰上の中心となる社。天武天皇の御世に都の西を司る国家的な風神として祀られた。平安時代の『延喜式』には風神祭の記述が見られ、以降、龍田地域の権威の象徴として交通や水運と大きく関わる。風神祭は今の例大祭と風鎮大祭に繋がっており、祭祀の中に大和川の治水や龍田山の山岳信仰の名残りがあ	奈良県 三郷町
⑮	れいたいさい ふうちんたいさい 例大祭と風鎮大祭	未指定 (無形民俗)		奈良県 三郷町
⑯	とぎよさい 渡御祭	未指定 (無形民俗)	龍田古道を渡る祭祀 龍田大社は聖徳太子が斑鳩寺を建立する際に場所の選定に関わったという伝承があり、近世には9月13日に龍田大社から斑鳩の龍田神社までのお渡りが行われていた。現在では、10月の秋季大祭に合わせてルートを短縮して行われており、5年に1度大規模なお渡り行事が行われる。神輿を担ぎ龍田古道を渡る様は、奈良時代の行幸を連想させる。	奈良県 三郷町
⑰	ごぎみね 御座峯	未指定 (民俗)	龍田大社のルーツはここ 龍田山伝承地にある龍田大社の神域で、風神が降臨した地とされ祀られている。龍田大社の「風鎮大祭」の翌日にはこの地で「山神祭」という祭祀が行われる。龍田大社の信仰と龍田山、龍田古道との関わりを示している。	大阪府 柏原市
⑱	みむろやま 三室山	未指定 (名勝)	龍田大社と龍田山の繋がりを示す 龍田古道のうち亀の瀬を迂回する道が通り、龍田山の裾野にあたる。龍田大社の神域であり、信仰の対象ともなっている。龍田大社の飛地である磐座や御座峯に繋がることから通称「神降りの道」と呼ばれている。	奈良県 三郷町

①⑨	かめいわ 亀 岩	未指定 (記念物)	亀の瀬を象徴する亀岩 亀の瀬の語源となった亀形の奇岩。亀石が動くと洪水になるという飛鳥の伝承は、この亀岩のことだろう。役行者の葛城修験最終地でもある。	大阪府 柏原市
②⑩	いわせ もり 磐瀬の杜	未指定 (建造物、民俗)	龍田に祀る水神 龍田大社の飛地で、大和川の水神を祀っている場所。例大祭に繋がる祭祀「滝祭」ではここから水神を降ろし、龍田大社にお連れする。龍田の風神と大和川の治水との関わりを今に残す。	奈良県 三郷町
②⑪	とうげはちまんじんじゃ 峠八幡神社	未指定 (建造物、民俗)	旅人が祈りをささげた地 川沿いの龍田古道で最も標高が高い場所にある神社。古道を行き交う人々が、天然の関であるこの地で、旅の安全を祈願したことに始まるとされる。	大阪府 柏原市
②⑫	りゅうおうしゃ 竜王社	未指定 (建造物、民俗)	舟運の安全を祈って 近世に大和川を運航した剣先船の船付場跡。舟運の安全を祈って祀られた神社で、剣先船仲間が奉納した石灯籠が残る。龍田大社の信仰と亀の瀬との繋がりを今に残す。	大阪府 柏原市
②⑬	たつたかぐら 龍田神楽	未指定 (無形民俗)	龍田信仰を表わす巫女の舞い 立野の坂根地区には坂本家という巫女の家系がある。坂本家は龍田大社の神事に大きく関わっており、風鎮大祭で舞う「龍田神楽」は同家に代々伝わるものであり、その舞は龍田姫信仰を連想させる。	奈良県 三郷町
②⑭	けいろうこ 奚婁鼓	国重要文化財	龍田信仰を彩る舞楽 龍田大社に伝わる平安末期に作られた雅楽用の太鼓。舞楽『一曲』の左方舞人が用いる。龍田大社で行われていた神事に関わるもので、古代の儀式を示す重要な資料である。	奈良県 三郷町

構成文化財の写真一覧

①．第三大和川橋梁



②．旧大阪鉄道亀瀬隧道（トンネル全体と崩落面）



③．亀の瀬地すべり歴史資料（地すべりの絵葉書写真と排水トンネル）



④. 第四大和川橋梁



⑤. 平隆寺跡



⑥. 関地蔵



⑦．青谷遺跡（発掘時の竹原井頓宮跡と出土軒丸瓦・軒平瓦）



⑧．夏目の渡し跡（大和川を渡る吊橋）



⑨．河内国分寺跡（塔の基壇と出土軒丸瓦）



⑩．芝山



⑪．松岳山古墳（石室と出土橢円筒埴輪）



⑫．史跡高井田横穴公園



線刻壁画『船に乗る人物』

⑬．智識寺跡（シンボルとなっている大楠と石碑）



⑭．龍田大社



⑮．例大祭（4月）



⑮. 風鎮大祭 (7月)



⑯. 渡御祭 (神輿のお渡りと先頭の猿田彦)



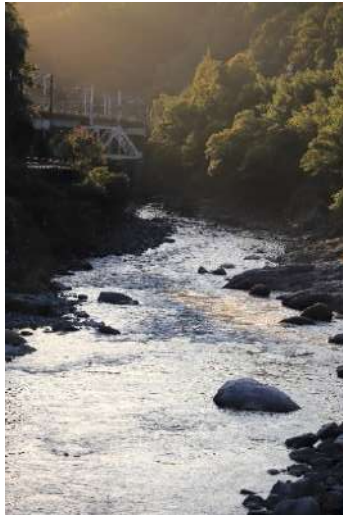
⑰. 御座峯 (奈良盆地の眺望と龍田山伝承地碑)



⑱. 三室山（黄葉する山と山越え道）



⑲. 亀岩



⑳. 磐瀬の杜



⑳. 峠八幡神社（神社と峠道）



㉑. 竜王社（社と剣先船仲間奉納灯籠）



㉒. 龍田神楽



②④. 奚婁鼓



舞楽「一曲」の左方舞人

日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

奈良県三郷町は、大阪への交通が便利なことから、大阪のベッドタウンとして発展した町であり、その一方で、「龍田大社」や信貴山周辺では「信貴山朝護孫子寺」、「開運橋」、「大門ダム」、「農業公園信貴山のどか村」といった県内でも屈指の観光資源を有しており、住宅地と観光地の両方の側面をもつ町である。

大阪府柏原市は、大阪府と奈良県との府県境に位置し、市域の3分の2を山が占め、中央部を大和川が流れており、大阪の中心部からわずか20kmほどの距離にもかかわらず、山や川などの多彩な自然環境に恵まれた府下でも有数の緑豊かな市である。

また、両市町は、大都市近郊（大阪中心部から20分・京都中心部から1時間）に位置するため、都市に集まるインバウンドの誘客にも有利な立地である。

現在、各市町ではそれぞれ独自に政策を展開しており、三郷町においては、まちづくり総合戦略に「地域特性や地域資源を最大限に活用し、三郷町への新しい人の流れをつくる」ことを掲げ、地域住民と一体となって龍田古道のPRに取り組んでいる。柏原市においては、地元名産のブドウを活用した万葉ロマンの地を巡る観光ルートの整備に取り組んでいる。

日本遺産認定の暁には、市町それぞれで取り組んできた政策を地域間連携の優先政策として融合させる。そして互いの取り組みを点から面で捉え直し広域的かつ効果的な事業を展開する。何より、来訪者の受け入れ環境の整備が重要であることから、まず、①おもてなし環境の整備として、来訪者がストレスなく周遊できるよう、案内板等のサインや移動手段の整備など、観光インフラを充実させる。併せて、②地域住民の機運醸成と参画推進の取り組みとして、地域に誇りを持ち来訪者に楽しみながら解説できる「旅先案内人（ガイド）」を育成するなど、市町の住民が一体となって観光客をもてなす体制づくりを整える。このように受け入れ環境を整えた上で、③来訪者によりストーリーを伝える、体験プログラムや学習ツールを整備する。さらに、④他地域事業への参加の推進により、広域で一体となった保全機運を作り出す。また、既存広域事業と連携を図り、新たな人の流れを作り誘致強化に繋げていく。以上により体制を整えた上で、⑤広報やプロモーション活動を実施する。併せてイベント等の実施や最新テクノロジー（5G通信）を活用した観光コンテンツの開発等により、日本人だけでなく、外国人来訪者の本格的な誘致策を展開する。なお、これらの取り組みを効率的に進めるため、地域の住民や団体を巻き込んだ事業推進協議会を立ち上げ、積極的にDMOや企業、大学とも連携を図っていく。こうして、事業を成熟させながら収益を得て自走化を図り、安定した運営の継続を目指す。

このような取り組みを通じて、地域住民の郷土愛を育み、地域ブランドの確立を契機とした新たな産業の創出へと繋げ、認知度の向上から交流人口の増加を図り地域経済の発展へと繋げていく。

日本遺産認定を契機とした取り組みと並行して、2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、2025年の大阪万博の賑わい、また、オーバーツーリズムが問題となっている京都からの観光客を取り込み、当地域に滞在し宿泊していただけるような取り組みを充実・継続させ、更なる地域の活性化を目指す。

(2) 地域活性化のための取組の概要

1) 現在の取り組み

《地域住民との協働による取り組み》

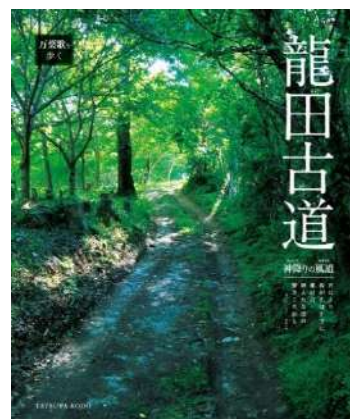
産官学地域活性化連絡協議会※事業の一環で平成28年度に誕生した、地域住民が中心となって構成している「風の郷 龍田古道プロジェクト」と、町との協働により、龍田古道の保全と幅広いPRで観光客誘致につなげる活動に取り組んでいる。

※ 地域の活性化に貢献できる取り組みを実践する協議会として、商工会（産）・三郷町（官）・奈良学園大学（学）を構成団体として発足。

これまでに、

- * 定期的に清掃等の保全活動を実施
- * 地域の行事、域外イベントへの参加・出展
- * 龍田古道マップの作成
- * ポスター（3パターン）及びチラシ制作
- * 記念切手シート、ポストカードの制作
- * 地域事業所とのタイアップによる商品開発
- * SNSによる情報発信

などの実績があり、今後は、町だけでなく柏原市の団体との連携も視野に入れ、龍田古道関連の事業を中心に、観光発展や地域活性化に繋がる活動に幅広く取り組んでいく。



制作したポスターの1枚

「柏原市との連携による取り組み」

現在、柏原市と三郷町は、地域活性化に向け様々な事業を行っている。そのなかでも、特に力を入れているのが、龍田古道、亀の瀬のPR活動及び観光客の誘致として、地方創生推進交付金を活用した『バーチャルとリアルを融合させた3幸（観幸・健幸・振幸）プロジェクト』である。

本プロジェクトは、平成30年10月から、通信キャリア（NTTdocomo）、旅行会社（JTB）が連携して、龍田古道の全国的な認知度向上のため、docomoの膨大な顧客基盤を活用し、スマートフォン所有者向けにバーチャルツアーの「歩いておトク」や、認知度向上に繋がるメールの発信、docomoのトップページへのバナーの掲載等を実施し、全ての広告に、JTBの旅行予約サイトへリンクさせることで、興味を持った方がそのまま予約出来る仕組みを作り、実誘客及び宿泊客の獲得に繋げている。

また、首都圏・関西圏の30歳以上の方など、地域や属性等セグメントを限定したターゲットにアンケート調査を実施し、より効果的な情報発信により、地域での認知度や顧客ニーズ等の把握に繋げ、今後の事業の方向性を判断する材料としている。

既に出ている実績として、

＊バーチャルツアー参加者が延べ45万人以上

＊アンケート調査の回答数は、1万6千件以上

＊バナー広告掲載のインプレッションは、240万回以上

また、首都圏のJTBの窓口の約1,000店舗にパンフレットを設置し、実誘客に努めている。

こうした取り組みにより、県内外から龍田古道に関する問い合わせが増え、遠方からの旅行者も増えてきている。大手企業同士が日本で初めて連携し、推進している本プロジェクトは、全国的な地域の魅力発信による関心度の向上を始めとし、交流人口の増加による地域活性化に大きく寄与するものである。これらの事業を推進しながら、日本遺産認定による新たな地域活性化事業を行うことで、より大きな相乗効果を発揮する。



2) 今後の取り組み

①おもてなし環境の整備

地域の魅力や不満点、顧客の趣味嗜好や満足度等を把握し、受入体制の強化や改善、新たな観光コンテンツの開発、プロモーション手法の検討に繋げるため、アンケート方式によるマーケティング調査を実施する。また、おもてなし環境の整備として、来訪者がストレスなく観光・周遊できるよう、案内サインをはじめ、ベンチやトイレ、フリーWi-Fi等の整備を図る。さらに、需要喚起型観光MaaSの活用により来訪者の周遊促進を図る等、観光インフラの更なる充実による地域の魅力向上・発信に努める。

これら、おもてなし環境の整備については、3カ年かけて実施する。

②地域住民の機運醸成と活動への参画促進に繋げる取り組み

来訪者を迎えるにあたり、まずは地域住民の機運醸成を図り地域住民自らが主となった活動を促進する必要がある。そのために、インナープロモーションや地元小・中学生へ体験学習を通じての普及啓発など、地域住民や地元団体、地元企業を巻き込んだ取り組みを展開し、良質な観光環境の向上を目指す。また、旅先案内人（ガイド）の育成により地域活動の参画を促進し、地域住民主体のまちづくりへと繋げる。旅先案内人については外国人来訪者へも対応できるよう、地域在住の外国人を養成することでインバウンド受入体制の強化を図る。

③観光や学習を通じてストーリーを伝える・体験する取り組み

来訪者に対して、ストーリーの理解を深めてもらえる事業を通して、満足感の醸成を図る。また、イベント性を持たせた学習やツアー等の体験プログラムの開発・実施により、幅広い年齢層の獲得を図り、一層の交流人口の増加を目指す。マップの他、外国人の興味を刺激しそうなツールについては外国語対応とし、国内のみならず、インバウンドにも受け入れられる事業の展開を図る。

④他地域との連携による保全機運の面的な醸成と強化

他地域や隣接地域の類似資源、関連施設との連携や、他地域事業への参加の推進により、当該地域だけでなく、広域で一体となった保全機運を作り出す。また、既存広域事業を日本遺産に絡めブースを出展するなどの連携を図り、大阪や京都からの観光客の新しい流れを作りだし誘致強化に繋げる。

⑤広報・プロモーション・イベントの開催

3年かけて、来訪者に対する受け入れ環境を整備し充実させたうえで、4年目以降に広報やプロモーション活動を実施する。併せて、イベント等の実施や、最新テクノロジーを活用した観光コンテンツの開発（5Gによる、①AI自動運転支援周遊バスの運行・②トンネル内でVR映像の放映など）により、日本人だけでなく、インバウンドの興味を刺激し、本格的な観光客誘致を進める。そのために、積極的に企業やDMO、大学と連携を図り事業を推進する。

⑥その他の連携

地域の住民や団体を巻き込み、機運の醸成を図り質の高い観光環境の向上を目指す。また、連携協定を締結している企業や大学の参画を促し事業を一層推進するとともに、国の機関やDMOとも連携を強化し事業協力体制の構築を図っていく。

(3) 自立的・継続的な取組

- ・本事業で質の高いガイドを育成し、富裕層外国人観光客に対しては有料とする。そのガイド料を財源に継続してガイドの育成を行う。
- ・地域ハストーリーを浸透させるため、地域団体主催の講演会、シンポジウム、ウォーキングイベントを有料で開催し、参加料を次回開催費用に充てるなど継続して実施する。
- ・ふるさと納税に日本遺産取り組み項目を設け、その寄付金によって、日本遺産に関する活動を継続して実施する。
- ・本事業で整備した拠点施設を活用したアンテナショップやシェアサイクルの運営による売り上げで、店舗や施設の維持・管理を行う。また、地元企業や商工会、自治体が運営のバックアップを行い、事業の継続性を高める。
- ・本事業で地元企業等との連携により開発した新商品を継続して生産・販売し、その収益で新たな商品開発を継続して行う。また、地元金融機関、自治体が商品のPRや販売促進の支援を行い、事業の継続性と他企業への拡がりをプロモートする。

以上のような取り組みを通じて、3年後を目途に自立化を図り、DMOの設立を視野に入れ継続的な運営の実現を目指す。

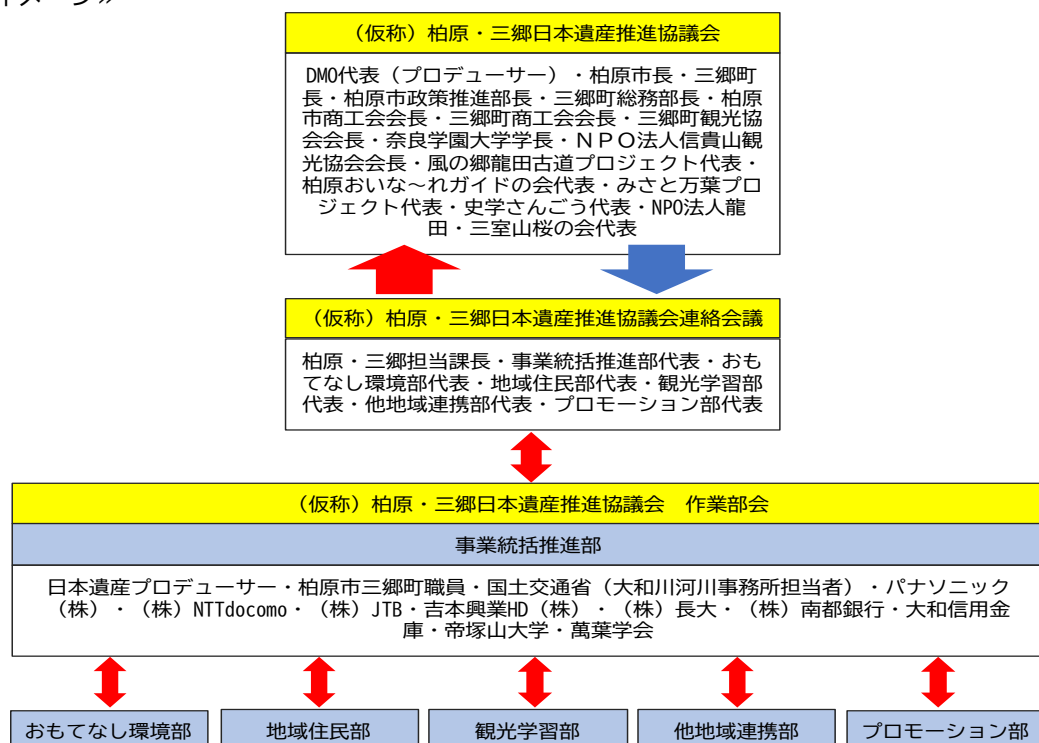
(4) 実施体制

- ・協議会の名称：柏原・三郷日本遺産推進協議会（仮称）
- ・構成団体：
柏原市、三郷町、柏原市教育委員会、三郷町教育委員会、DMO（奈良県ビジターズビューロー）、三郷町観光協会、NPO法人信貴山観光協会、柏原市商工会、三郷町商工会、奈良学園大学、風の郷龍田古道プロジェクト、みさと万葉プロジェクト、史学さんごう、柏原おいな〜れガイドの会、NPO法人龍田・三室山桜の会、国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所、パナソニック（株）、（株）NTTdocomo、（株）JTB、吉本興業HD（株）、（株）長大、（株）南都銀行、大和信用金庫、帝塚山大学、萬葉学会、日本遺産プロデューサー

日本遺産プロデューサーを各事業の企画、工程、進捗等を管理する作業部会内事業統括推進部のリーダーに据え、迅速な意思決定が出来るようにする。作業部会は他に、おもてなし環境部、地域住民部、観光学習部、他地域連携部、プロモーション部とカテゴリー別に部を設け、地域の住民や団体を巻き込むことでボトムアップの仕組みを確立する。各部会にリーダーを設け、各リーダーと行政担当部局が定期的集まる連絡会議を設置し、情報や課題の共有を図る。

当面の間は、他地域の同種業務の経験を有する者をプロデューサー（DMO代表）として協議会に設置し、協議会の意見を調整しながら取り組みを進め、その間に、プロデュースできる人材の育成を図る。

≪協議会組織イメージ≫



(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果			定量的評価：		別紙①のとおり	
期待される効果：	地域活性化計画の推進により、地域住民の文化資源に対する関心が向上することで、今後、地域の人たちによる文化財の保全が図られ、次世代へと継承されることが期待できる。また、日本遺産の取り組みの実現により、観光客の満足度が向上し、リピーターの増加が期待できるほか、来訪者の滞在時間が延長されることで宿泊客の増加が見込め、旅行消費単価増加による地域経済の発展に寄与できる。さらには、経済の活性化により雇用の拡大へと繋がり、地域の魅力向上から移住・定住が促進されることにも期待できる。					
(6) 日本遺産魅力発信推進事業			別紙②のとおり			
事業費：	令和2年度：	19,500千円	令和3年度：	25,000千円	令和4年度：	17,000千円
(7) その他事業			別紙③のとおり			

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	柏原市、三郷町の観光入込み数
関連事業：	(6) ⑦、⑧、⑨、⑩、 (7) ②、④、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱
目標値：	平成 30 年度 855,082 人 ⇒ 令和 6 年度 1,095,082 人
設定根拠：	総合戦略による観光客入込み増加数のKPIが年間4万人のため、平成30年度の実績値に対して、6年分を加算した数値を計上
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	日本遺産を活用した取組数（協議会による取組を除く）
具体的な指標：	柏原市、三郷町の企業や事業所が日本遺産プロジェクトに賛同し参画する数
関連事業：	(6) ②、⑦、⑫ (7) ①、②、④
目標値：	令和 2 年度 0 企業 ⇒ 令和 7 年度 6 企業
設定根拠：	(6) の事業は新規に実施するため基準値は0件。その他事業を含め、関連する6事業に対し最低1企業参画する数値を計上
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産のためのふるさと納税額
具体的な指標：	本事業で構築した事業を民間団体が継続して実施するための財源となる、ふるさと納税の金額
関連事業：	(6) ②、④、⑤、⑫ (7) ⑥、⑦、⑪、⑳
目標値：	令和 2 年度 0 円 ⇒ 令和 8 年度 232,000 円
設定根拠：	認定年度は制度を確立するため0件。目標値は、過去3年間の観光振興に対する寄付金の平均額を算出し設定
設定目標Ⅳ：	その他
計画評価指標：	その他
具体的な指標：	
関連事業：	
目標値：	平成 年度 ⇒ 平成 年度
設定根拠：	

※黄色で着色したセルの内容は変更しないでください。

※目標Ⅰ～Ⅳを複数設定する場合は、設定目標～設定根拠までをコピーして欄を増やしてください。

（6）地域文化財総合活用推進事業（日本遺産）

事業①：日本遺産サイン整備事業			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	令和 2 年度 ～ 平成 4 年度
事業費：	令和2年度： 5,000千円	令和3年度： 10,000千円	令和4年度： 10,000千円
事業概要：	観光インフラ整備の一環として、来訪者がストレスなく地域を周遊できるよう、案内サインの整備・充実を図る。 R2年度にサイン整備計画を策定し、計画に基づき次年度以降に整備を進める。サインは多言語対応、説明板にはQRコードを付加し詳細な情報を提供する。また、主要施設付近に近付くと情報提供と案内ができるビーコンを活用した観光アプリの導入も検討する。		
具体的な指標：	日本遺産関連施設入場者数		
目標値：	令和 2 年度	100 %	⇒ 令和 7 年度 120 %
事業②：来訪者の移動手段整備事業			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 3,000千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	観光インフラ整備の一環として、坂道の多いこの地域における来訪者の利便性向上のため、電動アシスト自転車、電動カート、電動キックボード等、SDGsの取り組み推進を兼ねて環境にやさしい移動手段の導入を検討し整備を進める。 地域団体もしくは企業による運営で自走を図っていく。		
具体的な指標：	電動アシスト自転車等の利用者数		
目標値：	令和 2 年度	0 人	⇒ 令和 7 年度 200 人
事業③：日本遺産フリーWi-Fiの整備			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 1,500千円	令和3年度： 1,500千円	令和4年度： 1,500千円
事業概要：	観光インフラ整備の一環として、来訪者が使用するインターネット環境の充実を図るため、自由に使えるWi-Fiを、主要施設に3ヵ年計画で整備する。		
具体的な指標：	Wi-Fi基地局設置箇所数		
目標値：	令和 2 年度	0 箇所	⇒ 令和 7 年度 30 箇所
事業④：国分問屋場亭活用事業			
事業区分：	公開活用のための整備	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
事業費：	令和2年度： 5,000千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	観光インフラ整備の一環として、駅前の立地にある、旧家「問屋場亭」を来訪者のおもてなし拠点施設（観光 i センター・ガイド受付・手荷物預り・地場産品アンテナショップ等）として整備する。また、定期的に地域の人を集めて歴史講座等を開催するなど地域交流拠点としても活用し、地域のシビックプライドの醸成を図る。		
具体的な指標：	施設の来訪者数		
目標値：	令和 2 年度	500 人	⇒ 令和 7 年度 1,000 人

事業⑤： 旅先案内人（ガイド）育成事業			
事業区分：	人材育成	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 1,000千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	旅先案内人（ガイド）の育成により地域活動の参画を促進し、地域住民主体のまちづくりへと繋げる。案内人については外国人来訪者へも対応できるよう、地域在住の外国人の養成を図り、インバウンド受入体制を強化する。		
具体的な指標：	ガイド育成人数に対する活動実績割合		
目標値：	令和 2 年度 0 %	⇒	令和 7 年度 200 %
事業⑥： マーケティング調査			
事業区分：	調査研究	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 1,500千円	令和3年度： 1,500千円	令和4年度： 1,500千円
事業概要：	アンケート方式によるマーケティング調査により、地域の魅力や不満点、顧客の趣味嗜好や満足度等を把握し、受入体制の改善や新たなコンテンツの開発、プロモーション手法の検討に繋げる。		
具体的な指標：	日本遺産認知度数		
目標値：	令和 2 年度 3 %	⇒	令和 7 年度 15 %
事業⑦： 大和川水運航路を楽しむ			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 1,000千円	令和4年度： 500千円
事業概要：	ストーリーの理解を深めていただくため、大和川の水運を活用しながら都を行き来していた古代の人々と同じ体験ができる取り組みとして、国（国交省）・アウトドアメーカーとの連携により、カヌーやカヤックによる川上り・川下りを楽しむイベントを開催する。		
具体的な指標：	参加者の満足度数		
目標値：	令和 3 年度 0 %	⇒	令和 7 年度 60 %
事業⑧： インフラツーリズムの開発			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 2,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	来訪者にストーリーをより深く知っていただくため、地すべりと闘ってきた歴史や近代土木技術等、この地域ならではのインフラを活用し、国（国交省）・旅行会社（JTB）との連携による亀の瀬地すべり体験・見学ツアーを旅行商品として検討や開発を進める。また、見学機会の拡大や恒常化できるよう、専門ガイドの確保（国交省技術者0B）と育成を図る。		
具体的な指標：	旅行者の満足度数		
目標値：	令和 3 年度 0 %	⇒	令和 7 年度 60 %

事業⑨： 龍田絵巻の制作			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 4,000千円	令和4年度： 1,000千円
事業概要：	2100年連続と続く龍田大社を中心としたこの地域の歴史と、日本遺産のストーリーを伝える事業として、近代以降ほとんど作られていない日本のアニメーションの原点とも言える絵巻を、日本画家の協力により制作し話題を提供する。絵巻は外国人の興味を刺激し誘客を期待するとともに、地域の文化意識の向上にも繋げる。なお、絵巻のレプリカを新たな土産品として販売する。		
具体的な指標：	レプリカ販売数		
目標値：	令和 3 年度 0 巻	⇒	令和 7 年度 50 巻
事業⑩： 日本遺産マップ作成事業（多言語対応）			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 2 年度
事業費：	令和2年度： 5,000千円	令和3年度： 0千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	来訪者にストーリーを伝えるツール整備の一つとして、日本遺産ガイドマップの作成と、いくつかの散策ルート設定したルート毎のマップを作成する。また、ガイドマップに店舗で利用できる特典QRコードを付加し、地域における消費促進を図る。併せて、真正面から撮影すると魂が抜かれると言われる場所や、風の神が降臨したマイナスイオン溢れる場所など、この地域ならではのスピリチュアルなフォトスポットを紹介する。		
具体的な指標：	マップ配布数		
目標値：	令和 2 年度 0 部	⇒	令和 7 年度 50,000 部
事業⑪： 地域インナープロモーション事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 3 年度
事業費：	令和2年度： 0千円	令和3年度： 500千円	令和4年度： 0千円
事業概要：	地域住民の機運醸成と日本遺産ストーリーの深い理解を促進するため、地域住民へ漫画を通じて普及啓発を図る。 ・広報誌により日本遺産特集記事の掲載（漫画連載）		
具体的な指標：	住民周知・認知度数		
目標値：	令和 3 年度 3 %	⇒	令和 7 年度 50 %
事業⑫： ご当地商品開発事業			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業費：	令和2年度： 500千円	令和3年度： 500千円	令和4年度： 500千円
事業概要：	日本遺産認定地のPRのため、商工会、農家、事業所、住民等と連携し、ご当地商品・土産物等の開発を行い商品化を進める。 ・ご当地米の生産（農家・JAと連携） ・ご当地ワインの製造（地元企業と連携） ・ご当地菓子の開発（地元店舗と連携） ・風神をイメージした風鈴の製作（地元事業所と連携） ・セッタのアレンジ商品の開発（地場産業と連携）		
具体的な指標：	新たな商品開発数		
目標値：	令和 2 年度 0 個	⇒	令和 7 年度 5 個

（ 7 ） その他事業

事業①：	AI自動運転支援バスによる周遊ガイド		
実施主体：	柏原市・三郷町・企業	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	来訪者に楽しんでいただく体験型コンテンツとして、映像ガイド付（亀の瀬地すべりの歴史・龍田古道の紹介等）で、事故が少なく利用者の安全性が担保される、最新通信システム（5G）を活用したAI自動運転支援バスによる周遊観光の実証実験を参画企業と共同で進める。		
事業②：	需要喚起型観光MaaSの活用		
実施主体：	柏原市・三郷町・企業	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	需要喚起型観光MaaSを活用し、ストレスフリーによる来訪者の満足度の向上や推奨ルートによる新たな回遊の促進、再訪意向の向上に繋げる。		
事業③：	龍田古道沿道整備事業（ベンチ・トイレ・風鈴）		
実施主体：	地域団体・地域住民・施設管理者	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	地域団体、地域住民により手作りで休憩施設（ベンチ）を製作し沿道に設置する。また、既存トイレの洋式化を図るとともに、地域の方と一緒に、インバウンド観光客を含む誰もが利用しやすい清潔なトイレの提供を進める。併せて、風鈴づくりのワークショップ（NPO法人主催）との連携により作成した風鈴を沿道に飾り付け、古道の道しるべとともに、地域の風物詩とする。		
事業④：	VRによる体験型コンテンツの開発		
実施主体：	柏原市・三郷町・国土交通省・企業	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	来訪者に楽しんでいただく体験型コンテンツとして、亀の瀬トンネル内で、映像により地すべり当時の様子を再現するなど、最新通信システム（5G）を活用したVR映像コンテンツを開発する。		
事業⑤：	日本遺産クリーンアップキャンペーン		
実施主体：	地域住民	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	龍田古道沿道のゴミ拾い、眺望スポットの草刈や伐採等の整備、また、地域の方の発案による日本遺産をイメージした駅前景観の整備等、地域の皆さんで面的な環境整備に取り組む。		
事業⑥：	日本遺産（龍田古道）ウォークの開催		
実施主体：	地域団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	地域住民を対象としたウォークイベントを開催する。ガイドをつけて古代に思いを馳せながらのんびりと歩いていただき、機運の醸成と普及啓発を図る。		
事業⑦：	日本遺産（龍田古道）写真展の開催		
実施主体：	地域団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	地域の方への魅力の発信と日本遺産機運の醸成を図るため、地域団体による写真展を開催する。		
事業⑧：	龍田百人一首の制作		
実施主体：	地域団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	龍田を舞台にした子ども向けの百人一首を制作し、それを使った大会を開催するなど、地域の子供たちに教育を兼ねた普及啓発を図る。		
事業⑨：	たつたひめ絵本の制作		
実施主体：	地域団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	秋の女神「たつたひめ」をモチーフにした絵本。龍田古道や龍田を詠んだ和歌の紹介もあり、日本遺産と連携したPRツールとして活用する。		

事業⑩：	和歌の木簡を作ろう		
実施主体：	地域団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	龍田を詠んだ和歌を木簡に刻印し、龍田古道沿道に飾り付けするイベントを実施。地域住民及び来訪者への普及啓発を図る。		
事業⑪：	松岳山古墳の環境整備・見学者案内		
実施主体：	地域団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	松岳山古墳及びその周辺の草刈や見学路の整備を地域の団体により実施。また、見学者を案内でできる体制を整える。		
事業⑫：	万葉講演会の開催		
実施主体：	地域団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	万葉集にまつわる講演会を定期的実施し、地域住民の日本遺産機運の醸成を図る。		
事業⑬：	日本遺産記念講演会等の実施		
実施主体：	協議会	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業概要：	地域住民を対象に、地域の機運の醸成を図るためシンポジウムを開催する。また、おもてなし機運醸成のための講演会等を両市町で実施する。		
事業⑭：	記紀万葉を語る講演会の実施		
実施主体：	奈良県	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	奈良県主催で行われる記紀万葉を語る講演会を活用し、ブース出展によるPR等を実施する。		
事業⑮：	防災意識向上講演会		
実施主体：	協議会	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	古代より亀の瀬地すべりの危険と共存している地域だからこそ、住民一人ひとりの防災意識が高い…という理想を実現するため、市町共同で防災講演会を実施。		
事業⑯：	大和川クリーンキャンペーン		
実施主体：	国土交通省・流域市町村	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	大和川流域を対象にした河川敷の一斉清掃の実施により、万葉時代に思いを馳せながら保全機運の醸成を図る。		
事業⑰：	世界遺産「古市古墳群」関連事業との連携・世界遺産見学者の誘導		
実施主体：	柏原市・世界遺産認定団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	世界遺産関連事業への参加・連携を図り、マップの配備や配布、情報提供等によって世界遺産見学者を柏原市へ、そして龍田古道へ誘導する。		
事業⑱：	日本遺産申請予定の「葛城修験」との連携		
実施主体：	柏原市・関連市町村	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	「葛城修験」において、修験最終地となる亀の瀬までの見学ルートの整備が考えられているので、それを活用し龍田古道へ接続することで新たな誘客を図る。		

事業⑱：	地域まつりの継承		
実施主体：	地域住民・地域団体	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	伝統文化の継承と保全意識の向上を図るため、地域のまつりに積極的な参加を促す。 ・龍田大社（渡御祭・例大祭・風鎮祭） ・堅上地区（雁多尾畑）まつり ・竜田古道里山公園さくらまつり		
事業⑳：	第73回萬葉学会全国大会		
実施主体：	三郷町・萬葉学会	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	基調講演・論文発表・現地視察を中心に行われる事業で、令和2年度は三郷町と共同開催となるため、その事業を活用し普及啓発・PRを図る。		
事業㉑：	市民総合フェスティバルへの参加		
実施主体：	地域団体	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	大和川河川敷において、市民郷土まつり、商工まつり、市民体育祭を同時開催するフェス。このイベントで日本遺産認定ブースを出展し普及啓発を図り、市民の認知度・機運の醸成へと繋げる。		
事業㉒：	大阪ワインフェスへの参加		
実施主体：	民間企業	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	大和川河川敷において開催される全国から人が集まる関西最大級のワインイベント。このイベントで日本遺産認定ブースを出展し普及啓発を図り、全国での認知度向上へと繋げる。		
事業㉓：	地域インナープロモーション事業		
実施主体：	協議会	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業概要：	地域住民の機運の醸成と地域住民自らが主となった活動を促進するため、地域住民へ普及啓発を図る。 ・地元住民で作成したフライヤーの広報誌折り込み ・日本遺産記念ゆるキャラの製作（広報を兼ねて広く公募） ・日本遺産のぼりの製作設置 ・ロゴマークの作成（広報を兼ねて広く公募）		
事業㉔：	友好都市間歴史交流事業		
実施主体：	三郷町・柏原市	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	柏原市・三郷町の友好都市間で歴史講座等を開催し、他地域の歴史遺産を知ることで、我が町の文化資源保全の機運を作り出す。		
事業㉕：	「風音祭」の開催		
実施主体：	観光協会・龍田大社	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	龍田古道～シルクロードをイメージに、龍田大社で西洋音楽”ジャズ”を演奏する音楽イベント。このイベントを活用し資源保全の機運醸成と普及啓発を図る。		
事業㉖：	地元小学生の校外学習		
実施主体：	柏原市・三郷町教育委員会	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	日本遺産認定の認識と防災意識の向上を図るため地元小学生を対象に校外学習を取り入れる。 ・亀の瀬地すべり資料館にて勉強会及び見学会 ・柏原歴史資料館にて大和川の歴史勉強会		
事業㉗：	史跡調査・整備事業		
実施主体：	柏原市・三郷町教育委員会	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	調査により史跡等の全容を明らかにし、貴重な史跡として保全し活用のための整備を図る。 ※三室山古墳（三郷町）・河内国分寺跡・松岳山古墳・鳥坂寺跡（柏原市）		

事業⑳：	文化財保存活用計画の策定		
実施主体：	三郷町教育委員会	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 4 年度
事業概要：	日本遺産認定を機に、構成文化財だけでなく、三郷町全体の文化財について保存活用計画を策定する。		
事業㉑：	空き家・空き店舗活用方策の検討・整備事業		
実施主体：	三郷町・柏原市	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	沿道の空き家や駅前の空き店舗について、来訪者のおもてなしに資する活用方策の検討・整備を行い、地域団体による運営計画を検討する。また、民間企業の資金や創意工夫を活かした空き家活用の誘致を図る。		
事業㉒：	亀の瀬地すべり資料館のリニューアル		
実施主体：	国土交通省近畿地方整備局・柏原市・三郷町	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	来訪者が気軽に立ち寄れる資料館へとリニューアルを図り、説明・案内できる体制を整える。 (魅力発信推進事業のインフラツーリズム開発事業と関連)		
事業㉓：	萬葉歌垣（うたがき）、歌合（うたあわせ）のイベントの開催		
実施主体：	三郷町・柏原市・万葉文化館	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	「たつたやま」・「たつたがわ」と歌枕になっている当地で、時代衣装を着用して古代に実施されていた歌垣・歌合を再現するイベントの実施する。		
事業㉔：	生駒山系「麓駆け道」の整備		
実施主体：	三郷町・柏原市・周辺市町村	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	生駒の修験道ゆかりの地を結ぶ「麓駆け道」を再興し、手軽に修験道の世界を体験できる場所として誘客を図る。		
事業㉕：	ジオラマ製作イベント		
実施主体：	三郷町・柏原市・一般参加者	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	ゲームソフト「マイクラフト」で、亀の瀬溪谷の製作を一般公募し完成後に公開する。（レゴブロックでの製作も可）		
事業㉖：	和歌を身近に・・・		
実施主体：	三郷町・柏原市	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	来訪者が龍田古道で和歌を詠み短冊に書いたものを各所に設置したポストに入れ、優秀賞等を選定し文化祭等でお披露目する。		
事業㉗：	柏原市歴史資料館での企画展の開催		
実施主体：	柏原市歴史資料館・協議会	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	柏原市歴史資料館に来訪者の学習機会やストーリーを体験できる場を設け、より理解を深めていただく事業を実施する。		

事業⑳：	日本遺産記念ディステーションキャンペーンツアー・イベントの実施		
実施主体：	地域団体・住民・協議会	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	<p>幅広い年齢層へのアプローチとして、イベント性を持たせたツアーや記念イベントを、地域団体・地域住民を中心に企画運営し、この地域独自の魅力発信とストーリーの理解を深めていただく。地域の方が主となることで、意識の醸成やガイドの育成にもつながることが期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・”必勝”信貴山朝護孫子寺、”順風”の龍田大社、”すべらない”亀の瀬を合格三大パワースポットをテーマとしたツアーの開催 ・龍玉（ドラゴンボール）を集めて夢を叶えよう（継続型のイベント） 		
事業㉑：	信貴山サイクルロゲイング		
実施主体：	三郷町・柏原市・八尾市・平群町・大阪府	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	既存事業の自転車による広域でのフォトロゲイングを継続して実施。日本遺産ボーナスポイントを設定するなど、参加者への認知度向上と周知を図る。		
事業㉒：	広域プロモーション事業		
実施主体：	協議会	事業期間：	令和 5 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	通信キャリアと連携した国内・国外へのプロモーションの展開を図り、国内外への認知度向上からインバウンドを含む実誘客へつなげる。		
事業㉓：	ホームページの更新		
実施主体：	柏原市・三郷町	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
事業概要：	柏原市・三郷町のホームページに日本遺産に関するコンテンツを追加し、情報発信に努める。		
事業㉔：	プロモーションビデオ制作・公開事業		
実施主体：	協議会	事業期間：	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	全国的な認知度向上と実誘客を図るため、プロモーションビデオを制作し公開する。制作にはドローンで撮影した映像なども活用する。		
事業㉕：	既存事業との連携・活用		
実施主体：	三郷町・柏原市・関連市町村・地域事業者	事業期間：	令和 2 年度 ～ 令和 7 年度
事業概要：	<p>既存事業を活用し、関連する展示会やシンポジウム、イベント等に参加し普及啓発に努める。また、日本遺産認定ルートの掲載や日本遺産認定地でとれた特産品を”食”にアレンジし、料理教室等の開催によるプロモーションを展開し観光客誘致を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖徳太子1400回忌に伴う関連事業 ・2市2町広域観光ルート整備事業 ・バーチャルとリアルを融合させた3幸（観幸・健幸・振幸）プロジェクト ・食と農×観光ブランディング事業 		